



第二中通信

安中市立第二中学校
平成28年7月27日(水)

二中スピリッツ

文武両道・継続は力なり・3C精神 発行責任者 石坂 克己
住所 安中市原市2245番地2 電話 027-385-7857

1学期も終了し夏休みに入りました

70日間という1学期も7月20日で終了しました。21日からは39日間の夏休みに入ります。1年生にとってこの1学期はどんな学期だったのでしょうか？最上級生として活躍していた小学校から、ピカピカの1年生に逆戻り、勉強・部活動・友達関係でとても大変だった1学期間だったのではないのでしょうか。2年生にとっては、後輩ができちょっとだけ成長した実感が湧いたのではないのでしょうか。市の総合体育大会も終了し、中心が2年生になってくる部活動も多いはず。ますます責任重大です。頑張りましょう！
3年生、とても楽しみにしていた修学旅行もあっという間に終わってしまいました。3年間やってきた部活動では十分な活動ができたでしょうか？今月末には県大会や8月上旬にコンクールが控えていたり、10月の友和祭までは中心メンバーとして活躍しなければならない人もいるかもしれません。最後まで頑張りましょう。そしてどうしても避けて通れない進路選択も待っています。この夏休みは家族とも充分話し合い、納得のいく進路選択ができるようにしましょう。

情報モラル講演会を実施しました

7月15日にPTA成人教育セミナーの一環として、群馬県子どもセーフネットインストラクターの伊藤洋一先生を講師に迎え「ネット～その危険性を知ろう～」と題し講演会を実施しました。今の子どもたちは小学生の頃から、インターネットや携帯電話が普及した中で育ってきています。何気なく使っているそれらにも、危険なことがいっぱい潜在しています。使い方をちょっと間違っただけで、ほんの軽い気持ちで書き込みや写真などをアップしてしまったりすることで思わぬトラブルに巻き込まれてしまうことを学びました。便利さをばかりを追求することによって、それらによる危険性にまで考えが及ばなくなってしまっているのではないのでしょうか。もう一度インターネットや携帯・スマホが持っている危険性についてもう一度考えてみたいものです。

安中市総合体育大会の結果(中体連関係)

=団体の部=

- 野球 優勝(県大会出場)
- ソフトボール 優勝(県大会出場)
- 卓球男子 優勝(県大会出場)
- 卓球女子 準優勝
- ソフトテニス男子 優勝(県大会出場) Bチーム 第3位
- ソフトテニス女子 準優勝 Bチーム 第3位
- バレーボール男子 準優勝(県大会出場)
- バレーボール女子 第4位
- バスケットボール男子 第4位
- バスケットボール女子 第3位
- サッカー 第3位
- 剣道男子 準優勝
- 剣道女子 第3位
- 陸上競技男子 準優勝
- 陸上競技女子 準優勝

=個人県大会出場者=

- 卓球男子 ダブルス
- 卓球男子 シングルス
- 卓球女子 ダブルス
- 卓球女子 シングルス
- ソフトテニス男子
- ソフトテニス女子
- 剣道男子
- 陸上競技男子
- 陸上競技女子



個人の結果については次号でお知らせします。

安中市少年の主張大会

安中市の少年の主張大会が、7月12日(火)に松井田文化会館大ホールで行われました。大会には市内各中学校から13名の代表が出場しました。本校からは、3年生の長滝涼生君・瀧口健一君、2年生の中島萌花さんの3名が出場し、長滝君が最優秀賞、瀧口君が優秀賞、中島さんが努力賞に入賞しました。長滝君と瀧口君は8月4日に藤岡市みかぼみらい館で開催される西毛地区大会へ出場します。

【最優秀作品】 日本の外

安中市立第二中学校 三年 長滝 涼生
世界の国々と比べて日本人は消極的だ、と言われることが多くあります。日本人はそれを外国の人は元気が良すぎるだけだとか、他人への気遣いであえて声をかけないのだ、などと言います。僕も、これが日本特有の落ち着いた雰囲気だしなあ、というくらいの認識でした。しかし、去年の夏、僕の人生に大きな影響を与える経験をしてから、この考えに疑問を持ち始めました。
昨年、僕は安中市の主催するカナダ派遣に参加しました。初めて日本を外から見るといふこの経験は、僕に様々なものの見方や考え方を学ばせてくれました。中でも僕が興味を持ったのは、カナダ人の性格についてです。外国人と聞くとおおざっぱで、大きな体を持ち、少し怠けている、そんなイメージをもつ人が多いのではないのでしょうか。しかし、実際に生活を共にしてみると、そんな偏見は一切なくなりなりました。僕のホストブラザーだった子は僕より少し年齢の下の男の子でした。彼は朝ご飯と学校にもっていくランチを毎日自分で用意していました。後で他の友達に聞いてみたら、多くのカナダ人の子供がそのような生活をしていることがわかりました。それはまさに、自主自立の精神でした。このことについて、日本人の添乗員さんに詳しくお話を伺ってみたら、外国の子供は日本の子供より5歳くらい精神年齢が高いということでした。他にも、カナダにいる間、横断歩道の手前に立つと、必ず車が止まってくれるなど、カナダの人のおもいやりのある振る舞いにも触れることができました。僕はこのような経験から、日本の中だけの考え方にとらわれず、日本の外に目を向け、もっと他の国の考え方や文化を知り、自分の世界を広げていきたいという気持ちが強くなりました。

では、他国の文化を知り自分の世界を広げるためには、まずどのようなことから始めたら良いのでしょうか。僕が思う一番身近な方法は、世界の共通語である英語を学習するという事です。他国の文化や考え方を学ぶためにはその考え方のベースとなるその国の言葉を理解する必要があると思うからです。その点、英語は多くの国で話され、会話や思考に用いられています。ですから、英語を学習することは多くの国の考え方を学ぶことに繋がるはずで

す。しかし、僕の身の回りに目を向けると、英語が嫌いという人や、学習する意味がないという人が多いと感じてしまいます。僕は5歳の時からハンガリー人の先生に英語を習っています。確かに僕も英語を習い始めた頃は何度もこの疑問を持ち、母に尋ねたりもしました。すると母は決まって、「必要になる時がかならずくるよ。」

と言いました。しかし、僕には、日本に住んでいるのに、英語が必要になるときなど本当に来るのだろうかという疑問が残りました。それでも英語の学習を続けるうちに、少しずつ僕に変化がおこって行きました。ハンガリー人の英語の先生は授業のあいまに、海外の行事をたくさん教えてくれました。その頃から僕は海外の行事のことをもっと知りたいたいと思うと同時に、その行事と関わりの深い英語そのものが好きになっていったのです。さらに、昨年の僕の担任をしてくれた先生と英語の学習を続けていくうちに、英語をもっともっと学習し、英語で自由に話せるようになりたいという気持ちが強くなって行きました。先生は英語を教えてくれるだけではなく、英語を話すことそのものの楽しさを感じさせてくれ、英語の重要性についても熱心に語ってくれたのです。こうした経験を経て僕はカナダ派遣に参加することができました。

そして今、僕には多くの海外の人々と関われる仕事に就くという夢ができました。これは初めて日本の中から出たことでもつことのできた夢です。この夢を叶え、海外で活動する中で、他国を知り、日本の良さを他国に伝えていきたいと思えます。日本人が消極的だと言われている今だからこそ、積極的に海外で活躍できる人間になりたいです。外国に大きくその印象を変えられた僕が、今度は日本人の印象をさらによいものにしていこうと思うのです。そのために今できる準備をしっかりとしていきたいと思えます。

皆さんも日本にただいるだけでは決して知ることのできない様々な文化やものの見方を学び、自分の世界を広げるために日本の中から一歩、踏み出してみたいかがでしょうか。一度しかない人生を小さな世界で終わらせたくないよう、日本の外に目を向けていきましょう。

情報管理にご注意下さい。

この紙面における【個人情報】については、個人情報保護の観点から、お取り扱いには十分ご注意下さい。
なお、情報管理についてご要望等ございましたら、学校までお知らせ下さい。
(安中市立第二中学校 TEL: 385-7857)

